

## 令和3年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大入島）

## 1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大入島

協定締結集落名：大入島漁業集落

交付金額：8,670千円

(1) 基本交付金：8,670千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：53世帯、64人（うち漁業世帯数53世帯、64人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入(直近3年平均) 3,591,106円

集落の平均漁業者所得1,665,925円（令和2年）

## 2. 協定締結の経緯

漁業が基幹産業である大入島においては、漁船漁業や養殖業等様々な漁業種類が営まれている。しかしながら、近年、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま推移すれば島の漁業は一層衰退し、集落の担う多面的機能が失われていく懸念がある。

そこで、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組む環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施することで漁業の再生を図るため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

## 3. 取組の内容

## ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

○種苗放流により資源の維持、増大を図った。

活動内容	放流数	サイズ (mm)	経費 (円)
種苗放流			
アカウニ	20,000個	14.1	264,000
カサゴ	6,800尾	77.2	486,200
サザエ	10,000個	25.84	350,000
トコブシ	10,000個	21.06	350,000
メガイアワビ	5,513個	31.70	485,100
クロアワビ	4,036個	26.00	355,168
マダイ	6,418尾	50.74	423,588
		計	2,714,056

○赤潮調査等により漁場の維持管理に努めた。

活動内容	実施日	数量	経費（円）
漁場の維持・管理			
赤潮調査	7月5日、9月24日	調査 2回 参加人数 2人 参加漁船数 2隻	30,000
底質改良材散布 (クリアウォーター)	11月16日～12月14日	3,660kg (20kg×183袋)	777,018
底質改良材散布 (アクアリフト)	6月21日～6月29日	25袋	135,520
		計	942,538

○海底耕耘等により産卵場・育成場の整備を図った。

活動内容	実施日	数量	経費（円）
産卵場・育成場の整備			
海底耕耘	6月29日～7月2日	参加人数 40人 参加漁船数 40隻	2,056,570
魚礁等の設置 (アワビプレート)	1月21日	設置数 80基	1,310,540
アワビプレート効果調査	7月16日	-	50,000
魚礁等の設置 (貝殻魚礁)	3月11日	設置数 8基	257,400
		計	3,674,510

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

○ハモの活かし箱出荷（関西・関東）を実施した。

活動内容	実施日	数量	経費（円）
流通体制の改善			
ハモの活かし箱出荷	5月7日～8月5日	-	789,520
		計	789,520

○リーフレットの作成を行った

活動内容	実施日	数量	経費（円）
販路拡大			
リーフレット作成	12月8日～2月1日	2,500部	128,645
		計	128,645

#### 4. 取組の成果

##### ①種苗放流

種苗放流においては、アワビ等商品価値が高いものかつ定着性のある種苗を放流したことにより、数年後の水揚金額の増大が期待されている。



カサゴ種苗放流 (R3. 5. 25)



アカウニ種苗放流 (R3. 6. 1~4)



メガイアワビ種苗放流 (R3. 6. 15~17)



マダイ種苗放流 (R3. 6. 24)



サザエ種苗放流 (R3. 10. 28~29)



トロブシ種苗放流 (R3. 10. 28~29)



クロアワビ種苗放流 (R3. 3. 10)

## ②漁場の維持・管理

養殖漁場の水質・底質の改善を図ることを目的として、底質改良剤の散布をおこなった。これにより、赤潮の抑制等、漁場の環境改善効果があるのではないかと考えられている。また、赤潮被害を最小限に抑えるため、赤潮調査を実施し漁業者へ注意を促し、漁場の維持・管理に努めた。



赤潮調査 (R3. 7. 5、9. 24)



底質改良剤の散布 (R3. 11. 5～12. 14)



アクアリフト散布 (R3. 6. 21～6. 29)



アワビプレート効果調査 (R3. 7. 16)

## ③産卵場・育成場の整備

海底耕耘を実施することにより、硬化しつつあった底質が軟化し、漁場環境の改善を図ることができた。これにより、魚介類等の幼稚仔の生息域の拡大、特にクルマエビの漁獲量増大が期待されている。

また、貝殻魚礁やアワビ増殖用プレートを設置したことで、藻場造成や磯根資源の増産に期待をしている。



小型底曳網漁船による海底耕耘 (R3. 6. 29～7. 2)



魚礁等(アワビ増殖用プレート)の設置 (R4. 1. 21)



魚礁等の設置 (貝殻魚礁) (R4. 3. 11)

## ④漁業の再生に関する実践的な取組状況

活かし箱等を活用したハモの流通改善に取り組むことにより、活ハモの付加価値向上を図ることができた。

また、大入島の水産物をPRするリーフレットを作成し、大入島水産物の消費拡大を目指した。



ハモの活かし箱出荷(R3. 5. 7～8. 5)



リーフレット作成 (R3. 12. 8～R4. 2. 1)